



▲ 当山、報恩講で高田聡信先生のお取りつき (昨年12月16日)



金光寺寺報  
第211号  
発行所 金光寺  
宮崎県西臼杵郡  
五ヶ瀬町大字鞍岡  
5927番地  
☎ 0982  
83-2338

今月法語カレンダーのことば

如来誓願の薬はよく智慧の毒と減するなり

一月のことばは、『教行信証』信文類から  
の一文です。「智慧の毒」、あまり聞き慣れ  
ない言葉かも知れません。「智者の毒」と  
「愚者の毒」といったところでしょうか。  
「智者の毒」とは、所詮わすかほどしかない  
自らの智慧をひけらかし、阿弥陀さまの他力  
にまかせない自力心のことと考えられるでし  
ょう。「雑毒の善」という言葉もあり、私たち  
の行う善は、仏さまのような完全な善ではな  
く、自力心という「毒が雑った」善なのです。  
この自力心のことを「本願疑惑」とも称し  
ています。自らの智慧や力に頼る思いが残っ  
ているから、阿弥陀さまの他力にすべてをお  
まかせしないあり方になるのです。本願を信  
用しきれず、本願を疑っているから、自らを  
誇り、自力に頼ろうとするのです。

「愚者の毒」とは、代表的なものに「貪欲

(むさぼり)・「瞋恚(いかり)・「愚痴  
(おろかさ)」という「三毒」の煩惱があり  
ます。念仏申す身にならせていただいても、  
煩惱具足の身であることは変わりません。お  
互いの明日がわからず、ともすれば死んだら  
おしまいと思っていたのが、このいのちの落  
ち着き先がお浄土だと気付かせていただいた  
のです。腹が立ったら拳が上がり、不快なも  
のは払いのけようとする私の手が、仏さまの  
前では自然と合わされ、他人の悪口を言うの  
が楽しく、愚痴ばかりこぼしている私の口か  
ら、思わず知れず、お念仏がこぼれ出るので  
す。これらは、やはり何かが変わっているのだ  
と実感します。それが、「如来の誓願の薬」  
のはたらきでしょう。

(本願寺出版社刊「大乘」誌掲載  
『月々のことば』より抜粋 転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行  
いません。ご協力をお願いします。

- ◎ 1 月 25日(金) 終 日  
29日(火) 午 後
- ◎ 3 月 7日(木) 終 日
- ◎ 4 月 20日(土) 終 日
- ◎ 5 月 26日(日) 終 日

2018年12月、次の金光寺門信  
徒の方がご往生なさいました。謹んで  
お悔やみ申し上げます。

2018年12月 6日 満92歳  
小切畑 吉岡 百合子 様

ホームページ開いています。

URL <http://konkouji.jp/>

1月7日現在アクセス数 85,213人

いい隙ら陣ブ間すら業す発いき新晦でたお鐘かにしのまでにしし降すがい  
いで間隙をを風°冷を°はしを年日お°参だね何ま数し新除くいつ°ま明  
です風間調貼°床たし▼守よしのか願今りけ?かすがた年夜おもてこ雪すけ  
すがを風ベリ急下いて年っうておらい回を撞▼原°減が最の願のものが°ま  
°お防°るま°きか風い未てとい参はしのしい初因道っ°初鐘いで里ま降寒して  
(許ぎテとしよ°らがる娘い思たりまま鐘なて詣が路て年のをしすにまらので  
職しま!あた°娘か来ととたいだをすし撞い阿参あ交い々お撞まねは°な厳お  
をしづち°娘なる娘本だまくし阿たき方弥詣る通く°つきす°降スいしめ  
松°た貼らそ透り°が堂けすよて弥がはが陀との法よ初と°今らキのいで  
井寒°りこの冷と°外た°うか陀°一あさいで改う詣め引▼年な!が新と  
卓い見をち後のた言こ陣よーにらさ今人りまえし正な参をき大もい場幸年う  
郎よ苦し°テいいこでう人お鐘ま年一まへばよ以気詣行続晦よでにいでござ  
りしてか外!隙まか作で一願撞へ大発しの°う外が者いい日ろ欲はです

仏教名言ノート

五十年

織田信長の時代

織田信長の時代、日本人の平均寿命  
は推定で二十八歳に満たなかったとい  
います。  
乳幼児の死亡率が高かったこと、  
戦乱が大きな原因のようですが、食糧  
事情も医学の発達も現代とは比較にな  
らない時代でした。  
このような時代では、「人間僅か五  
十年」という言葉が重く感じられます。

この言葉の始めは、「幸若舞『敦盛』  
の「人間五十年、下天の内をくらぶれ  
ば、夢まほろしのごとくなり」という  
文句で、織田信長が好んだ言葉でした。  
信長は桶狭間の合戦で今川義元の軍  
を奇襲して打ち破り、戦国大名として  
の活路を見出しましたが、その出陣を  
前にこの曲を舞いました。  
また、本能寺の変で死を覚悟したと  
き、信長は寺に火を放ち、『敦盛』を  
舞い終わると自害して果てます。ドラ  
マでも名優たちが見事に舞って、名場  
面となっています。  
この『敦盛』の文句は、『俱舍論』  
という仏典の、「人間五十年、下天一  
晷夜」という文が典拠といわれています。

「下天」とは、仏教宇宙観によると、  
世界の中央にそびえ立つ須弥山という  
高山、その中腹の四方にある四王天の  
ことで、四天王はこの主です。  
『俱舍論』の文は、この四王天、つ  
まり、下天での一晷夜は、人間の五  
十年に相当するということです。  
「人間の寿命はせいぜい五十年」と  
いったのではなかったのですよ。どう  
ぞ、ご存分に生きてください。  
織田信長 行年 四十九歳  
(本願寺出版社発行  
辻本敬順著  
「仏教名言ノート」から)

任職ひとりごと